竹下復興大臣「東北六県魂の酒まつり」訪問会見録
（平成 27 年 9 月 13 日（日）15:35～15:40　於）東京国際フォーラム）

１．質疑応答

（問）まず、大臣の最初のご挨拶の中で、東北の魂を味わってもらいたいという話があったと思うんですけれども、いかがでしたか、味わわれて。

（答）酒はうまいですよ。私はしかも飲んべえです。もちろん、会長も大酒飲みですし、実は、このミス日本酒が大酒飲みだということが分かりまして、今日も楽しく、一緒に酒を飲ませていただきました。やはり、民族の酒というのは民族の体に一番合う。民族の食べものに一番合うわけでありまして、それは守っていかなければ、絶対に守っていかなければいけない。東北は、今、復興の途上にありますけれども、それは、単にハードで堤防つくったり、道路つくったりではなくて、その中に息づいている文化とか、伝統とか、まさにその中の一つである民族の酒というのは、私は大きな位置づけをもってこれからも継承していかなければならん大事なことだと、このように改めて認識したところでございます。

（問）やはり、酒が文化の重要な一つの伝統ということなんですけれども、被災地がそういうソフト面でも復興していく上では、やはり酒がどんどん評価されていったりですとか、東北の酒が世界に出ていったりですとか、そういうところへの期待というのはありますでしょうか。

（答）期待はありますけれどもね、まだ被災地には十分な人口が戻ってきてませんから、まだまだ被災地での直接の消費というのは、残念ながらそれほど伸びていないことは事実でございまして、だけど、一つは、輸出は伸びています。やはり、日本食と相まって、酒というものの輸出、これはもうもっともっとこれからやっていかなければなりません。その中で、一つ克服しなければならんのは、風評被害です。風評被害をしっかり克服して、海外に安心しておいしい日本酒を、日本食と一緒に飲んでいただくというのを、我々はこれからやっていかなければいかんと、こう思っております。今、会長のところでは海外にはどれぐらいですか。

（新城・日本酒造組合中央会東北支部長）
私のところは海外に１割弱やってます。もう20年間かけて、やっとたどり着いたと。やはり、日本食がおいしくなるイコール日本食を食うなら酒がいいというのをみんな分かっていただいてるという、そういう意味でありがたい。先ほど、大臣おっしゃったように、やはり地元の消費というか、地元の人たちが元気にならな

いと、基本的なベースは膨らんでいかないんですよ。今、海外でつかってもらってもまだまだこんなもんですから。これを、いわゆるミラノ博でも日本がうんと見直されていて、そこから一気にいきたいと思っています。

（問）日本酒の振興と同時に、やはり東北六県の酒蔵は、被災して大きなダメージを受けたんですけれども、それの復興支援に関するイベントに、これだけ多くの人が来てくれることについてはいかがお考えですか。

（「2015ミス日本酒（Miss SAKE）」）

やはり、まだまだこないだの大雨の被害もありますし、ますます東北にはサポートが必要だなと思っております。東京には、やはり人口が集中しておりますので、東京から、私も東京出身ですので、東京から何かサポートできることを、力を発信できることをということが、今後ますます必要なのかなと思いました。

（新城・日本酒造組合中央会東北支部長）彼女は根っからの酒娘でして、大学で酒づくりを覚えて、勉強して、大酒飲みで、別に酒屋の娘じゃないんですよね。家族でよく飲んでるそうです。これは、こんな最強の日本酒娘はいません。

（以　　上）